

新規検査項目追加のお知らせ

謹啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記検査項目に於きまして、新規検査項目の追加を
いたしましたので、ご案内申し上げます。 謹白

記

新規検査項目

自己採取HPV検査

HPV核酸検出(高リスク型・HCⅡ法)

ヒトパピローマウイルス(HPV)は、子宮頸癌に密接に関連している**高リスク型**と、関連のない低リスク型に分類され、高リスク型HPVは10数種にも及びます。

最近のHPV検査の普及により、子宮頸癌予防の認識・重要性が高まっています。

これまで弊社でのHPV検査は液状化細胞診(LBC法)で実施してまいりましたが、今回、エヴァリンブラシによる自己採取HPV検査の導入を行いました。エヴァリンブラシによる自己採取法において、自己採取と医師採取でのHPV検査の判定結果は90%以上という高い一致率が得られ、医師採取HPV検査と同等の精度を担保しております。

婦人科を受診することへの抵抗感や、時間の都合が付かないなどの理由で、子宮癌検診を受けられない未受診者が多くいる中、子宮頸癌検診は、肺癌・胃癌・大腸癌・乳癌・子宮頸癌検診の5つの検診の中で、唯一20歳から受診対象となっておりますが、20歳代の検診受診率はわずか22.2%、20~69歳全体でも、42.1%です(厚生労働省の「平成25年国民生活基礎調査」より)。

20歳代~30歳代の子宮頸癌患者が急増している中、自己採取HPV検査は、医師採取を受けていない女性への検診受診の動機付けにもなります。

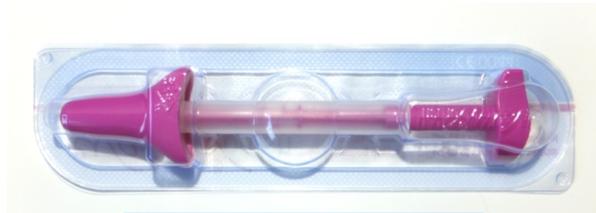
各検査方法に関する詳細は、弊社営業および各種書面、各検査担当者よりご案内いたします。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

自己採取HPV検査
HPV核酸検出(高リスク型・HCII法)

HPV感染者の90%以上はHPVを自然に排出しますが、残りの5~10%の感染者では持続的に感染を続け、子宮頸部粘膜細胞に異形成を生じることがあります。持続感染が解消されないと、一部で異形成から子宮頸癌へと進展することがあります。平均10年以上の期間を経て子宮頸癌へと進行しますので異形成期間が長期にわたります。かつては中高年に多かった子宮頸癌が近年では若い女性の癌になっており、数倍に増えています。

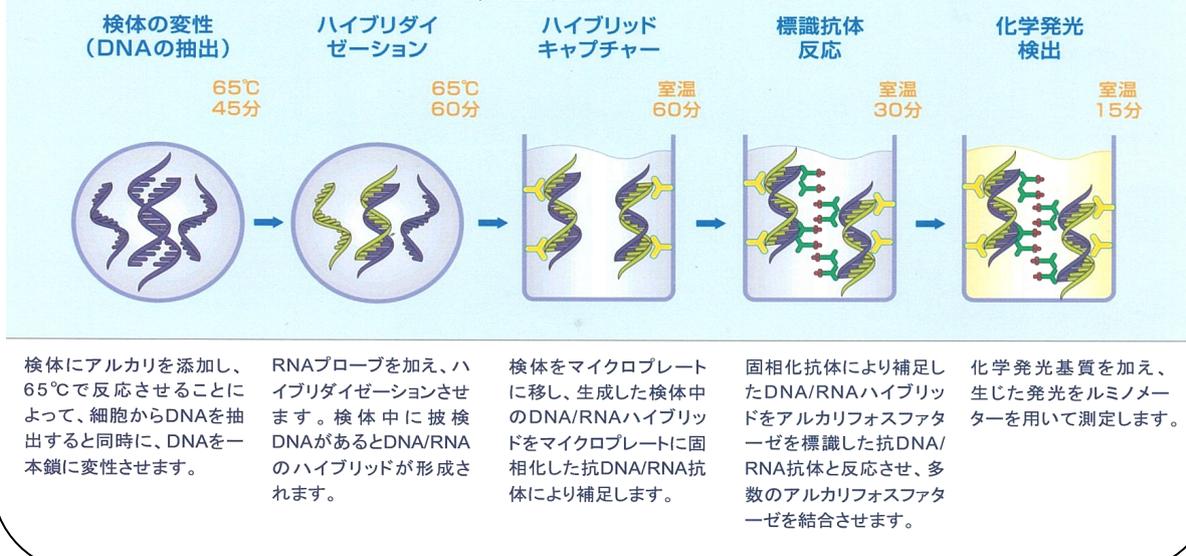
専用器具にて自己採取
採取は約3分で完了、手順も簡単



エヴァリンブラシ

HPV検査はハイブリッドキャプチャー法にて検査を実施いたします。

ハイブリッドキャプチャー法の測定原理



注) ・エヴァリンブラシによる、婦人科細胞診検査は実施できません。
・保存安定性は、室温で2週間です。採取後、速やかにご提出ください。